

一般社団法人日本粘土学会 2024 年度第 1 回常務委員会議事録

日 時：令和 5 年 9 月 13 日（水）12:00～13:10

会 場：仙台市戦災復興記念館 4 階第 1 会議室および Zoom 会議室

出席者：常務委員(13 名)：川俣 純、鈴木正哉、蛭名武雄、横山信吾、中戸晃之、伊藤健一、亀島欣一、佐久間博、地下まゆみ、手束聡子、森本和也、渡邊雄二郎、鈴木憲子

欠席者(2 名)：小口千明、日比野俊行

監事(1 名)：志々目正高

オブザーバー(2 名)：山崎淳司、毛利恵美子

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数 15 名の過半数 8 名

出席常務委員 13 名で常務委員会の開催は成立

審議事項

1. 2024 年度常務委員役割分担について（理事会資料 1）

蛭名常務委員長より委員会委員の役割について説明があり、名簿に訂正がある場合は速やかに申し出て欲しいとの要請があった。

2. 2024 年度事業計画年間スケジュール（理事会資料 3）

蛭名常務委員長より、選挙の項目が増えているが他は例年通りの計画であることが説明された。遅滞の無いように準備を進めて欲しいとのことであった。

昨日の理事会でも提案されたが、川俣会長から選挙管理委員会委員の他に電子投票の技術担当を置く件について、前回選挙管理委員の森本委員に就任の依頼があり、快諾された。今後は常務委員会の役割の一つとして確立する必要があるとの意見が出され、庶務の仕事に振り分けることで調整することが決まった。また森本委員にマニュアルの作成を依頼した。

前回の選挙システムの使いやすさについて質問があり、森本委員から以下の回答があった。前回は会長、理事共に信任選挙だったので一度の投票で済んだが、通常選挙と信任選挙では別々に投票する必要がある。この件を会員に周知して投票漏れがないようにする必要があるが、他は概ねよかった。また選挙のない年は「休止」にすることができ、それによって年会費と初期費用が節約できる点もよいとのことであった。

3. 粘土科学討論会について

(1) 第 66 回粘土科学討論会について

蛭名実行委員長から、参加人数などについて説明があった。

(2) 第 67 回粘土科学討論会について

中戸実行委員長より、討論会は 9 月 4 日、5 日の両日で計画をしているが、これから大学に申請するので±1 日は見ておいてほしいとのことであった。また、前日に若手の会、討論会後に見学会を計画しているとの報告があった。また、リモート参加の準備はせず、完全対面での開催である旨が報告された。

討論会場と懇親会場が離れるため、直前に予定されるシンポジウムのスケジュール

が大切なので、渡邊企画委員長に申し伝えることとした。

4. 日本粘土学会学術振興積立金の目標額について（理事会資料4）

オブザーバー参加の山崎先生から、粘土学会、討論会の歴史と学術振興積立金の関係について説明があった。周年行事は粘土学会の創立ではなく、討論会の回数で行っている。頻度も決まったものではない。また学術振興積立金は日本で開催した国際会議の黒字を積立てたもので、過去には出版事業や中国での Asian Clay などに出費していた。

今後については周年行事をどうするかも含めて議論をする必要がある。

粘土科学討論会での黒字は学術振興積立金の大きな原資ではあるが、そもそも討論会は会員サービスの一環であり、LOC の負担も考えると赤字にならないければよいくらいで進めてはどうかという意見が出された。

5. その他

賛助会員が減少していることが議論となった。インボイス制度関係での退会は現在のところないが、注意が必要である。また賛助会員の満足度をあげる施策が必要である。学生を応援する企業名を冠した賞の創設を、賛助会員に提案してみてはどうかという意見があった。一般会員に企業の人が減っている。賛助会員の社員は正会員として討論会に参加できるが、正会員の人もいるので、不公平にならないようにしなければならない。

以上、審議の上、承認された。

報告事項

1. 特になし。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和5年9月14日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

常務委員長 蛭名武雄 ㊟

監 事 志々目 正高 ㊟

監 事 高木哲一 ㊟